

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400228		
法人名	社会福祉法人 実寿穂会		
事業所名	グループホーム ポート野芥		
所在地	福岡市早良区野芥八丁目7番1号		
自己評価作成日	平成29年11月4日	評価結果確定日	平成30年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP: http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成29年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

入居者様の好きなことが出来、やりがいを持つことで楽しい時間を一緒に見つけていく中で、お思いを知り、楽しくて出来ること・楽しくてやりたいことを一緒に過ごす中、毎日に目的があり活き活きと楽しむ事で、笑顔にあふれ充実した毎日を過ごす。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

野芥校区の住宅街に位置する「グループホームポート野芥」は平屋建ての2ユニット事業所で、法人は福岡、長崎で特養、サ高住、デイなど複合型の施設や、居宅介護事業などを運営している。法人全体として会議による情報共有、全体研修、BBQ、忘年会などの職員交流も図られている。入居者の「出来るかもしれない、したいかもしれない」にチームで取り組み、束縛されずに自分のタイミングでやりたいことをやってもらうようにしている。草取りをしてもらう方は自分で自由に外まで出て作業をしており、自主性を生かしている。女子会や男子会による入居者交流もしており、円滑なコミュニケーションにより入居者同士の結びつきや交友の深まりに活かされている。今年から満床にもなり活気も出てきて、支援の難しいケースも柔軟に受け入れることで職員のレベルも上がってきたという。これからの地域の認知症を支える施設としての活躍が大いに期待される事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有することで楽しい時間を一緒に見つめていくお手伝いをします。私たちは、思いを知り、楽しくて出来ること・楽しくてやりたいことを一緒に過ごしていきます。私たちは、毎日に目的があり、生き活きと楽しむ事で、笑顔のあふれた充実した毎日と一緒に歩みます。を、掲げている。三つの言葉から、各ユニットでスタッフ一人一人で作上げた理念を掲げ日々のケアに取り入れている。	事業所の理念は「お約束」として、開設時に管理者が中心となって3つのものを定めた。理念に書かれる内容と、管理者との面談を元にしてスタッフが個別の目標も設定し、日々取り組んでいる。フロア理念としても各項目での取り組みの心構えを掲げており、日頃のケアで自然に取り組めるよう繰り返して触れている。	理念に馴染みをもって取り組めてきているが、ケアや理念の大元となる心がけ的なものにさらに職員が意識をもって取り組むことで、前もって対策が打てるような職員の能力向上や意識の向上につながることに期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加している。事業所の行事に地域の方に踊りに来て頂いたり公民館の備品を貸して頂いたり助けられている。運動会や祭りなど地域行事に参加し地域との交流を図っている。子供会との交流、子供110番に参加、地域の一員として交流を図っている。避難訓練など地域の方に参加して頂き、常日頃から地域を意識し関わっている	地域の協力で、昨年から地域文化祭に入居者が描いた絵画の作品展示をさせてもらっている。自治会長も協力的で、行事の案内を頂くことも多く、夏祭りや餅つきなどに参加しているほか、地域ボランティアに来てもらい音楽演奏なども定期的に来られている。地域情報などは回覧板などで頂いている。校区の公民館の依頼で、キャラバンメイトの講師としても管理者が赴いている。	地域に出向いた活動として、施設の前で小学校の登校の見守りにも取り組みたいと考えている。可能な範囲で入居者と一緒に、地域にも出向き、関わりが深まり、継続されていく事も期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護保険サービス並びに、認知症ケアについての相談があり対応している。キャラバンメイトの資格を持った職員がいるので、地域に向け認知症についての勉強会を開催し、認知症の理解についての情報を発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、入居者様・入居者家族ならびに自治会長、公民館館長、居宅事業所、デイサービスセンター、薬局、市役所・包括支援センターに参加を呼びかけている。様々な意見を取り込み、サービスの向上に努め、よりよいサービスを目指している。会議の中で自治会長に踊りのボランティアについて相談したり紅白幕の貸し出しを依頼し実現している。	2ヶ月ごとに曜日は不定期で開催し、地域や他事業所などの外部からの参加者も多い。家族には、入居間もない方を中心として案内し、議事録は全員に郵送報告している。入退去や行事報告、ヒヤリハット報告などを中心に行い、それぞれの参加者の立場からの意見や質問も多い。	新規入居の家族を中心に案内していたが、参加も一巡したので、引き続き家族参加してもらえそうな、働きかけや曜日の設定など検討されることに期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議において、入居者様・入居者家族ならびに自治会長、公民館館長、居宅事業所、デイサービスセンター、薬局、市役所・包括支援センターに参加を呼びかけている。様々な意見を取り込み、サービスの向上に努め、よりよいサービスを目指している。	最近は少なくなったが、市役所にも運営推進会議の案内をしており、参加されることもある。近頃系列事業所の実地指導もあり、立会いと手伝いに行った際にコミュニケーションをとることもできた。地域包括には空き情報を伝えて紹介を頂くこともある。介護申請や事故報告も郵送せず、必ず持参するようにして、その際に直接報告を行うようにもしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、法人の勉強会に参加し全体意識の統一をはかっている。入職プログラムや会議においては入居者個別での肉体的ならびに精神的虐待を共通理解できるようにしている。	玄関はユニットにより電子施錠と、常時開放を分けていて、入居者も希望すれば自由に出入りできるようにしており、自分で開錠する入居者もいる。法人研修に外部講師を招いた身体拘束の勉強会をしたり、内外の研修での学習機会は多い。以前離脱事故もあったが、日頃の過ごし方や接し方の見直しによって束縛しない対応に繋げ今は穏やかに過ごしている。		

H29自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、マニュアルの作成ならびに入職プログラムや勉強会を行っている。法人の勉強会として弁護士などの研修に参加し理解を深めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政の講座などを活用し成年後見人制度の内容や意図について、勉強会を行い、理解を深めている。実際に成年後見人制度を紹介し、利用されている方がおられる。	事業所の働きかけによって後見人利用につながった入居者もあり、外部の後見人とやりとりをしている。毎年計画的に外部講師を招いた権利擁護に関しての勉強会も行い、一般的な知識を習得している。必要性が認められる方には管理者が中心になって提案し、新しい情報が載せられた資料をその都度準備するようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書ならびに契約書の読み合わせを行っている。いつでも、不明な点や疑問について説明が出来るように常日頃から心がけている。管理者のみで契約をするのではなく計画作成担当者と一緒にすることで、内容を理解し説明できるようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族からの意見や要望について、ユニット会議ならびにカンファレンスなどで話し合いを行っている。ご家族様も参加される催し物がある際は顧客満足度アンケートをとり意見を聴取し反映に努めている。入居者家族会の設置を考えており、現在ご家族様に会長になっていただけたよう打診中である。	顧客満足度アンケートを独自で毎年しており、頂いた意見から日頃の料理の中身を知りたいとのことで報告を行った。積極的に面会に来ていただくよう家族にも依頼しており、ほぼすべての家族が月1回以上は訪れている。事業所全体での写真入りの「ポート野芥だより」のほか、担当職員によるお手紙、個別写真を毎月発行しこまめな報告をして喜ばれている。	家族会結成に関して取り組み、協力をお願いしており、お互いに良い形での実現につながること期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の業務の流れは、職員たちで話し合いをし作成しているので、変更があっても大きな戸惑いはない。支障があれば自分たちで解決し、よりよい職場環境作りに繋がっている。夕方には「男子会」「女子会」が開催され、入居者の楽しみにも繋がっている。	毎月の全体会議と、ユニット会議があり、それ以外にも随時ミニカンファレンスを開催している。何かあった時は直ぐにその日の職員で集まることで、リアルタイムで対応を改善している。本部からの指示が来ることもあるが、職員全員で話し合っ入居者本位の取組に繋がっている。管理者との個別面談もあり、日頃話しやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりの努力や実績、勤務状況を把握するように努めている。給与水準や労働時間も含め、一人ひとりが目標をもって、日々のやりがいの持てる環境づくりに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用面接には、本人の学びが重要だと思ふ。対人援助職として、一人ひとりの気づきが集まりよりよい認知症ケアへと繋がっていると考えており、性別や年齢、経験等で採用の判断はしていない。	職員は男性比率の方が多く、全体の年齢層では20～60歳代まで幅広い年代で活躍している。外国籍の職員もいるがコミュニケーションもよくとられており、資質や能力が活かされている。不慣れになる方も入居者と年代の近い職員が中心になって関わることで安心して過ごすことにもつながっている。休憩時間や休憩場所もわけて取られ、メリハリのある勤務がされている。勉強会や件数の機会も多く、積極的に取り組んでいる。	

H29自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	行政の出前講座などの活用や、弁護士などの研修に参加し、人権の尊重ならびに尊厳について学ぶ機会を設けており、本人にとって何が1番かを常に考えるようにしている。	行政からの出前講座では元学校長の方に来てもらい、「気づきから築きへ」とのテーマで全般的な人権学習を行った。毎年計画立てて定期的に依頼しており、入居者と一緒に学習機会を持っている。外部研修に行った際にも内部での伝達研修を行う。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時にオリエンテーションプログラムを組み認知症ケアについて目標設定をし、理解をすることから始めている。職員のつまずいている事があれば会議の議題にあげ話し合い、全員で解決できるように取り組んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者研修で交流した同業者と相互訪問を行い、他職種連携研修会に参加したり、運営推進会議においても近隣の介護保険事業所に参加頂きネットワーク作りを行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前アセスメント時に、職員との写真と撮り入居の際にお渡ししている。入居の際が一番不安だと考え、会ったことがある人がいるという安心感を作っている。ケアの統一では、本人の思いを根拠に入居前・三日目・一週間・一ヶ月のカンファレンスを実施している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際に家族の困っていること不安を聞くことから、具体的なケアの方向性を伝えるようにしている。入居に際しての要望についても、寄り添えるようにし、よりよい関係作りの構築を目指している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いを根拠に、家族の意向を考慮しながら、入居前・三日目・一週間・一ヶ月カンファレンスを行い、幸せな未来の為に、今必要なサービスを話し合いサービス計画を作成している。体を動かしたいという本人の要望があり認知症デイケアを利用されている方もいらっしゃる。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の幸せのために、何が出来・何をしたいのかを考えサービス計画を作成し認知症ケアを行っている。本人の役割作りの中で、幸せを感じていける事が第一と考えている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	請求書に、日々の写真と、施設便りを同封している。ご家族様も本人を支えるチームの一員である事をお伝えし、サービス計画においても家族の支援をお願いしている。		

H29自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者自身の楽しみを叶えられるように夢実現を行っている。具体的には、個展や愛犬に会いたいなど実現出来るように、日々の入居者からのヒントを反映できるようにしている。近所の方から入居者への声かけもあり、社会性が薄れないように支援している。	商売をしていて忙しい家族もいるが、事業所の働きかけと協力の申し出により、小売りの訪問販売出店など全体にもよい刺激になりそうな取り組みが考えられている。家族の面会も多いが、それ以外にも趣味のギター仲間が来たり、知人が来る方もいる。家が近所の方は一時帰宅したり、外泊する方もおり、家族にも協力してもらい要望がある際は自由に過ごしてもらっている。入居者同士の関係も良好で、仲の良いもの同士で外出すること多い。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の役割を奪わない支援をしている。一人一人の出来ること・したいことを楽しむことができる環境を作ることで、互いを認め合える場面作りを行っている。女子会・男子会が他者と関わる機会にも繋がっている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者が安心したケアを受けていく為にも、チームでなくてはならないと考える。だからこそ関係性を大切にし、途切れない支援をしていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「本人の思い」を根拠にし、日々のケアでも添えるように対応している。本人の思いを、職員が気づけるように、マネジメントしている。意向を表す事が困難な方には、その人にとってのサインを知る事で意向の把握に努めている。	入居時に本人、家族から、嗜好調査と24時間暮らしの情報シートを記入してもらっており、情報収集している。随時カンファレンスによっても日頃の情報を共有して思いや意向の把握に努める。入居者それぞれの1日の過ごし方を、意向や、出来ることなど様々な観点で分析し、本人の能力を生かしたケアに全員で取り組むことに役立っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に暮らしの情報シートにて、本人の生活の様子を把握するようにしている。これまでの生活歴を把握するために、本人・家族に「出来ること・したいこと」を主体に伺い、生活状態、サービス利用につながった経緯などを尋ねている。入居前カンファレンスでもケアの統一の中で、把握するように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居当初は対応する中で、本人の思いを探っていく、入居者の「出来るかもしれないこと・したいかもしれないこと」で、役割を通して過ごしていただくなかで、根拠を見つけて対策を立てるケアを考えている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ること・したいことを根拠に、本人の思いをケアプランに反映させ作成している。なぜそう思っているのか、なぜそうしたいのかを話し合う中で、いろいろな気づきを話し合い、目標達成のために日々のケアに活かし、評価を行っている。	入居者ごとの担当者を割り振り、24時間シートの作成や、個別のお手紙、カンファレンスでの状況報告などを各担当が行う。集約した意見をもとにケアマネがプランを作り、モニタリングにもつなげている。どうやったら本人の望むことが出来るか、という観点で積極的なチャレンジを後押しできるようなプラン作成を目指している。申し送りのファイルにケアプランを差し込んでおり、プラン目標も日々共有している。	ケアプラン目標の実施や、その日の本人の感情や変化の詳細がわかるような記録になることを目指していきたいと考えている。現実的な形での取り組みが検討されていく事にも期待したい。

H29自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートを使い、入居者のノーマルを知ることにより、入居者の当たり前に気づき、ケアの実践や介護計画において見直しができるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者・家族からの、ニーズに対応できるように、連携施設との情報交換ならびに、運営推進会議において包括支援センターや居宅介護事業者とも相談できるように取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に参加し、行事ごとに参加をし、楽しんでいくことで豊かな暮らしが提供できるように支援を行っている。 家族とともに地域夏祭りは設営の手伝いなどに参加し地域の中で生活を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療かかりつけ医による、往診を定期的に行っている。精神科・内科・循環器科・歯科の先生と連携を組み、入居者の安心につながるようにしている。	事業所の提携医が精神科で認知症に強いということもあり、入居時に説明の上、主治医を切り替えてもらっている。訪問診療が個別には月2回あるが、全体ではほぼ毎日来ており、日頃から相談もしやすい。内部での提携医療機関で対応が済むことが多いが、基本的には事業所からの支援で通院介助もしている。医療報告は医師と薬剤師から直接家族に連絡されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の気づきなどを、かかりつけ医の看護師と相談をし、適切な治療ならびに受診ができるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期発見・早期治療ができるように、入居者の「いつもと違う」に気づき、早めの対応を行うようにしている。入院した場合においても、病院関係者と1週間ごとに情報交換をするようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	老いの中で、重度化していくことは当然と考える。だからこそ、入居者の幸せを考え事業所としてケアを考えていきたい。 訪問診療かかりつけ医と連携しながら、事業所としてできることをチーム全員で模索して実践し、ターミナルの同意書を作成し、家族・本人の意向に添って取り組んでいる。	看取り指針を定めており、入居時に説明の上同意を得ている。希望があれば出来る限りの支援を行う考えで、今までに一人の方を看取った。対応が難しい際には系列の老健などに照会することもある。提携医も24時間オンコール対応しており、何かあった時も迅速に対応してくれる。研修は随時、対象者がいる時に開催するようにしている。	

H29自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時ならびに事故について、マニュアル作成している。定期的な訓練については勉強会ならびに消防職員による救命救急講習を開催した。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを設置している 火災を想定し、近隣の方にも参加していただき避難訓練などを行っている。災害時については自治会長に相談をし、対応について助言をいただいている。	AEDを設置しており、次回救急救命訓練も実施予定である。消防署も立会いのもと、年2回防災訓練も行っており、直近では近隣の家族にも参加してもらった。夜間想定訓練もしており、全体での避難行動を共有している。平屋建てのため避難もしやすく、近隣の集会所も避難場所として提供してもらえる。備蓄物も確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアルを作成し、入職研修ならびに、勉強会において項目を設けている。 入居者の声かけでも、思い込みの返事をするのではなく、本人の思いがわかっているからこそ精神的苦痛を与えないように配慮を行っている。	入社時のオリエンテーションのほか、内部研修でも定期的に接遇について取り上げている。入居者の尊厳とプライバシー保護のため、居室のカギも持ってもらい、束縛しないケアを心がけている。入居者によっては、失礼のないように配慮しながらも、親しみをもってもらうような呼びかけもしている。写真利用に関しては書面で同意を得たものについてのみ使用している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを知ることで、何を求めているのかを探っていく。その場限りの対応をするのではなく、認知症ケアを行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の流れに入居者を会わせるのではなく、入居者、一人ひとりのペースにあったケアが行えるように、本人の思いを優先できるようにしている。ケアプランの中でも「本人の思い」をニーズとしてとらえている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者が希望される理髪店を家族の協力で応えている。起床時の整容にも配慮している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや片付けなどの役割を、入居者一人ひとりに持ってもらっている。役割を奪わないように、入居者一人ひとりに合わせ声かけを行い、みんなでチームになれるよう支援している。	3食とも業者による調理済み食材の配食があり、ご飯のみ炊飯している。皿洗いや配下膳、お茶出しなど入居者に手伝ってもらっている。外食は家族に依頼して連れ出してもらう事が多い。誕生日のケーキ作りなどは皆で取り組むこともある。忘年会として家族と一緒に行事的に食事レクも企画している。職員は別個に持参したものを食事している。	行事の際などに調理レクや合同調理などで、皆と一緒に食事作り、からかかわれるような機会を作ること、今後職員と相談の上で検討されていってもよいのではないだろうか。

H29自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事については、味が均等ならびに塩分濃度にも配慮するために、管理栄養士による献立を業者から納入している。水分については、目標を設定し、好きな飲み物を把握して、どうやったら飲みやすいかを1人ひとりに合わせた器、形状を検討し摂取していただけよう心がけている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医による歯の健康診断を行い、本人の状態にあったアドバイスを頂いている。歯磨きについては本人が出来る所までやっていただき、磨き残し等は声掛けや手伝いをしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者を定時誘導するのではなく、24時間シートを使用し、本人の排泄パターンがわかることにより、失敗ならびに失禁が少なくなるように支援している。失敗や失禁が少なくなることで、入居者に自信が付きおむつの方を、布パンツに変更する事ができた	日勤と夜勤帯を分けて、ユニットごとの、バイタル兼24時間分排泄チェック表がある。水分摂取などとともに、便秘期間なども管理し、担当職員が中心になって改善提案も行っている。男性職員も多いが、プライバシーを確保して本人が嫌な思いをしないように配慮したケアを心がけている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士指導による、食材にて食事提供を行いバランスが取れた内容となっている。日頃から入居者の食事量・水分摂取量を把握し、便秘予防につとめている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間を14時から16時と設定している。毎日入浴をされる方も居られれば、医師の指示を受け入浴の回数を設定している方も居る。本人の希望も有り夜に入浴をされる方もいらっしゃる。	各ユニットの浴室は共通の造りで、三方向から介助できる位置に浴室が設置され、両脇には可動式ベンチ、壁面の手すりも多く、介助、移乗もしやすい。概ね週2～3日程度の入浴だが、希望があれば毎日でも対応できる。夕食後も安全に配慮したうえで体制を整えれば入浴できる。皮膚観察も異常があれば、直ぐに医師と連携をとって迅速な処置につなげている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	24時間シートを活用し、入居者のサイクルに沿った生活サイクルの組み立てを行っている。入居者のいつもの様子を、職員は把握出来ているので、表情や仕草などで、声かけを行い、休息できるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携薬局にて、薬を一包化し安全に服薬できるようにしている。他科受診しても処方せんを施設に持ってきてもらい、薬剤師の薬のチェックを行ってもらい、副作用の少ない状態を考えている。服薬提供表をファイリングし、急変時などでも速やかに医師に報告できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「したいことかもしれない・できることかもしれない」、本人の思いを把握することで、何が目的なのかを考えていく。根拠から、その方のしたいこと・できることにつなげ、日々を生き活きすることで役割を考えている。		

H29自己・外部評価表(ポート野芥)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日散歩を行っている。全員で行くのではなく、入居者と職員や、夫婦のみ、女子入居者同士と、色々な場面を散歩で行っている。地域からのお誘いで、夏祭り・グランドゴルフ・運動会など、行事ごとにも参加を行っている。	安全に配慮したうえで、自分で戸外に出て、草刈りや喫煙をする入居者もいる。地域行事への参加や、企画行事なども全体ではなく、気の合う入居者同士で連れだって行くことが多い。散歩では近くの公園やコンビニに行ったり、企画外でも気軽にドライブなどで、外出してもらっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望があれば、お金を持って頂けるようにしている。外出の際や、欲しい物があれば買い物に出かけ、入居者に精算が出来るように支援もしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居契約の際に電話はいつでもかけられる様に家族と相談をし携帯電話を持たれている方もいる。手紙についても自由にやりとりが出来るように支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に、テレビ・ソファを置き、団らんの場所の提供を行っている。入居者の部屋の入り口には、似顔絵を職員が描き掲示をしている。音の混濁がないようにしている。	平屋建てで、スタッフルームと中庭を中心に左右対称に各ユニットが配置されている。ホールは吹き抜けになっており、開放感があり、日当たりも良い。テレビスペースはホールとL字に配置されており、あえて分けることでメリハリをつけて過ごしてもらっている。観葉植物も至る所に置かれており、柔らかな空間づくりに役立っている。居室から近い位置にトイレも配置されており利用しやすい。過度に飾りつけもせず極力シンプルにしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に、テレビ・ソファを置き、団らんの場所の提供を行っている。入居者の部屋の入り口には、似顔絵を職員が描き掲示をしている。音の混濁がないようにしている。中庭には、入居者で植えたプランターがあり、気のあった入居者同士で育てている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使いなれたものを持ってきていただくようにしている。新しい環境だからこそ、今までの自分の物が周りにあることで安心していけるようにしている。	幅広のフローリングはライトブラウンの色調で、施設全体を明るく感じさせる。居室もフローリングで継ぎ目なく続いており、一体感がある。木調の電動介護ベッド、造作のタンスが備え付けられており、広めの造りで、ソファやテレビなどの持ち込みも自由である。表札は筆による手書きで飾られていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「したいことかもしれない・できることかもしれない」、本人の思いを把握することで、何が目的なのかを考えていく根拠から、環境整備を工夫し、その方のしたいこと・できることにつながるように考えている		